

様式1 平成 30年度 甲府市立甲府商業高等学校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 校訓をよりどころとし、教員の一致協力のもと「生徒の成長」を判断基準に教育活動を行う。

甲府市立甲府商業高等学校校長 油井壮介

本年度の重点目標	1. 主体的な学びによる学力向上	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	(1)主体的に学習に取り組む態度(2)実践的・体験的学習活動(3)教育課程全般を通じた商業教育(3)高資格取得	B 概ね達成できた。(6割以上)
	2. 社会で活躍できる人づくり	C 不十分である。(4割以上)
	(1)質の高い部活動(2)地域・社会に対する貢献活動(3)生涯を見据えたキャリア教育(4)就職・進学指導	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(1月31日現在)		
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	
				達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	生徒の実態、社会の需要に合った教育活動の展開を目指し、学校全体・各学年の教育課程、教育活動を的確に行う	学校行事の的確な運営 各分掌間の行事立案・企画の調整 授業力向上に向けた校内研修、授業観察の充実	教職員及び生徒の意見 生徒の授業評価	B	①各分掌や学年と協議を重ね、調整を図り円滑な運営ができた。 ②学年が変わる年に合わせ、職員の働き方改革を意識し、生徒の実態を考慮する中で、立案・調整することができた。 年間6回の校内研修と年間3回の相互授業参観週間を行った。特に2回目の相互授業参観は教科の垣根を超えた班づくりで多くの職員同士で相互授業参観を行い、後日行われた校内研修ではそれを踏まえて活発な意見交流の機会を持ち大きな成果をあげた。
2	広報活動の充実	中学校訪問による商業教育の紹介 中学生にとって分かりやすい魅力ある学校説明会の開催 魅力ある商業科目の体験授業の実施(体験入学) 部活動見学を主とした学校公開の実施	アンケート調査 教職員の意見 入学生志願者数の増加	B	○1学期後半に、商業研究部の教員全員が、生徒募集のために在籍生徒の多い出身中学校に出向いた。学校説明会では、時間の配分を考え、プレゼンテーションの仕方等に若干の工夫を加えることができた。体験入学でも、商業科職員が魅力ある授業を展開することができた。アンケートの結果も好印象なものが多かった。 ○現在の中学生3年生の最終希望では、昨年度を0.15倍上回る数字であった。広報活動が奏効したかどうかは、不明であるが、希望者が増えたことは一定の成果と考えた。商業高校が少なくなる昨年、商業高校の学習の意義を説き、本校ならではの部活動や商業教育を通じての成果をこれまで以上に、アピールしていく必要を感じる。
3	生徒のニーズに合った進路指導の充実のため、進学希望者の学力向上およびキャリア教育の充実をはかる	小論文指導の充実 各種課外と進学模試の実施(センター試験奨励) インターンシップの充実 新規事業所数、生徒の感想、受け入れ先の評価 各種講演会・ガイダンスの企画	全職員による指導体制の構築と指導内容の充実 受験者数、課外受講率 新規事業所数、生徒の感想、受け入れ先の評価 生徒の感想、アンケート	B	6月より全職員による小論文個別指導を開始、夏季休業中の小論文及び進学課外、9月からの医療・看護及び学短課外等も計画通り実施し、志望校合格に繋がった。課外出席率はいずれも90%を超えた。また4次進学者の学力養成のため進研模試及びセンター試験の受験を奨励し、対策課外も実施した。進研模試は10名、センター試験は2名が受験した。 インターンシップは51事業所で119名が参加した。生徒、受け入れ事業所ともにたいへん有意義な行事と回答している。4月に進路講演会、6月に進学資料配付会、7月に3年生ビジネスマナー講習会を実施した。2月には2年生、3月には1年生を対象に進路ガイダンスを予定している。
4	高資格取得の一層の推進とビジネス教育の充実と新教育課程の編成	検定内容の研究と主体的な学びの推進 検定で取得し得た知識を基にビジネス実践的体験的学習活動の推進 学科の特色を生かした柔軟な新教育課程の検討 職員の授業改善への意識を高める 日商簿記2級・ITパスポート等の取得	個々に対応したきめ細かい授業・課外等を充実させる 現場実習・インターンシップ・甲商テート等で実践する 現状の分析を行い、教育方針に沿った教育課程を考え 定例の会議を持ち情報の共有化や効果的な教育課程を検討する 対策講座等の充実と挑戦者数・合格者数の増加	B	・検定科目においては、全商検定を主に各検定対策に商業科全職員で生徒への指導にあたった。結果として、例年同様に各検定3級2級は8～9割の合格率、1級においても4割の合格率となった。なお、3年生の3冠以上取得者は、1月情報検定終了時点で、119名となり、残りの2つの検定でさらに増加が見込まれる。今年は、9冠の生徒が4名となり、9冠達成は4年連続、4名達成は学校史上初の快挙となっている。 ・また、3年生では課題研究や商品開発の授業などで、商業で学んだ知識を実際に活かす活動が行われた。「課題研究」では実用ビジネスで甲商テートの宣伝や外部企業とのコラボ商品の開発を実行中であり、来年度開発商品を甲商テートで販売する予定となっている。「現場実習」では各企業でお世話になり、実際にビジネスマナーや接客などを学び貴重な経験をさせていただいた。
5	商業科目の学びを意識した甲商テートの実施	「探究学習の時間」を用い、テートの取り組みの中で、常に授業内容を取り上げ、商業の学習の実践の場であることを意識させる。 甲商テートの取り組みの中での学習内容を、その後の学校行事の中でよかす場面づくりをする。	記述を中心とするアンケート 記述を中心とするアンケート	B	・商品決定まで「探究学習の時間」の説明プリントにて、生徒への意識づけを示す。サービス接客、食品衛生、POP作製といった講習会を実施した。 ・サービス接客講習会受講者を卒業式の受付係とする。
6	豊かな心の育成といじめのない学校を目指し、道徳実践力を養い、心豊かな人間の育成する。	学校行事、HR活動・特別教育活動や集会を通して指導する。 全職員の共通理解による統一指導と家庭との連携を密にし徹底を図る	生徒・保護者・教職員の学校評価	B	・学校の様々な教育活動全体を通じて、調和のとれた人の育成を目指して、個別に適切な指導を行い、生徒に人間としての在り方や生き方について考えさせることができた。 ・学年主任および担任からの聞き取りや生徒指導委員会、職員会議などを通じて、共通理解を図り指導にあたった。また、長期休業前には生徒・保護者に向けた通信を発行して、周知・徹底を図ることができた。 ・命の大切さや他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識や公共心の低下が指摘されている現代社会の中で、生徒の豊かな人間性や社会性を育てるために、個々に応じたに響く道徳教育を充実させる必要がある。 ・図書教養部と連携をとり、生徒の多様な興味・関心に応える読書の機会を充実させ、豊かな心が育める図書・教材等の充実にも協力した。

学校関係者評価	
実施日(平成30年0月0日)	
評価	意見・要望等
A	保護者は入学させて良かったと感謝している。学区全体で取り組み、成果を上げていることが理解できる。
A	学生が部活動や資格など優秀な成績をおさめたことを伝える情報をよく新聞などで見る。しっかり情報発信されていると思う。勉強だけでなく運動部も頑張っている素晴らしい。
A	進学、就職ともに豊富な進路先から選ぶことは学生にとって幸せなことである。小論文や面接の指導が良いと思う。約8割の保護者が満足していることから、指導が行き届いていると思われる。進路の情報が活用されていることは重要である。3年生全員が進路が決まっていると聞き良かった。インターンシップは少しは多めの生徒に体験してほしい。
A	校長の方針のもと、明確な目標(三冠取得など)に向かって教職員が一体となり進んでいると思われる。自分の進路に関連した指導内容に満足している生徒が多いことは素晴らしいことである。学校改善・点検アンケートより保護者の96%が子供を入学させて良かったと答えていること、校長はじめ教職員の努力が実ったと感じる。9冠が4名、3冠が144名と前年度より合格者が増えていることは先生方のご指導のおかげだと思う。
A	甲府商業高校ならではのプロジェクトであり、毎年盛大に開催されることが素晴らしい。地域社会との関わりも学生の力になっている。創意工夫され、感心させられる。甲商テートのSPHの取り組みの中で外部講師による講習会は子供たちにとって役に立つとも良いことだと思う。
A	学校を訪問するたびに、挨拶の良さに感心させられる。学生のうちに身につけたことは大きな財産だと思う。生徒の自主性、自律性を高める指導と公平な評価をされることに生徒は満足していることがうかがえる。いじめの問題はとも難しくインターネットやSNSのトラブルなど目の届きにくい所についてもご指導いただけたとありがたい。

※※※ (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。